

H28.11/3(木)～11/6(日)

普代村おためし移住体験レポート

京都府在住：桂月

今回訪ねた普代村について、私が感じたことを報告します。

私は普代村に入るにあたり、普代が岩手県のどこに位置しているのか念入りに確かめました。インターネットで調べながらアクセスについていろいろ検討してみました。それは、まだ見ぬ普代村に思いをはせるというとても楽しい作業で、「青の国：北緯40度の地球村」に大いなる期待を持って臨むことができました。まず往路は京都→東京→久慈とバス移動を重ねながら北側から三陸鉄道にて普代駅に入りました。さんてつ・北リアス線からの眺めは本当に素晴らしく、特に堀内駅をはさんで安家川橋梁・大沢橋梁あたりの景色にはとりわけ心を奪われました。それはリーフレットにある「青の国」そのものでもありました。復路は南の宮古駅に出て盛岡→仙台→京都と再びバスを乗り継いでの帰宅としました。結果して北緯40度の普代村を軸に岩手県北部をぐるりと一周することになり、より詳しく深く知ることができて本当に良かったと思います。

さて普代村がなぜに「青の国」と言われるのか、そのゆえんがHPにありましたが、実際に訪れてみてそのわけが良くわかりました。海岸線から見る青い空と青い海は水平線がわからないくらいの一体感で、実に美しい青一色の世界が目の前に広がっていたのです。滞在した日々は素晴らしい晴天で、抜けるような青空で本当にラッキーな4日間でした。地球儀の Monument やカリヨンの鐘のある黒崎園地から、さらに階段を下りて黒崎灯台まで歩きました。くろさき荘の裏手に廻りアンモ浦展望台にも足を延ばしました。荘厳な断崖絶壁の中に一筋の白糸のように落差100メートルのアンモ浦の滝が見えました。翌日には潮風トレイルの遊歩道、特に岩場の自然洞窟を歩いてみたくなりネダリ浜まで車でおりました。人っ子ひとりいない浜辺は水が青く透き通っていて本当に美しかったです。

普代での食も楽しみのひとつでした。1日目の昼は堀内大橋南詰めの「レストハウスうしお」でいただきました。眺望に優れた場所にあり遠く太平洋の水平線をみながらのランチは最高に気持ち良かったです。2日目の「魚定」ではボリュームたっぷりの刺身定食（1日限定10食）を、3日目は「大上食堂」の磯ラーメンと、あちらこちらで普代の幸をおいしく味わうことができました。どの店も素朴で親切でアットホームな店主の人柄にふれ、ゆっくり時間をかけて味わうことができました。

今回の移住体験で私が特に見ておきたかったのは村民の暮らしぶりです。コミュニティバスによりお年寄りの足は確保されているようで駅・役所・郵便局・通院といった村内での所用はほぼ大丈夫のようです。しかもバス運賃が全くの無料とは驚きました。私の町では一乗車200円に値上げされて久しいです。普代村が福祉に力を入れていることが良くわ

かりました。村内にはコンビニや大きなショッピングセンターはないけれど、新鮮な魚介類・食料品を扱う店やホームセンター、ガソリンスタンドなどが商店街にあり、たいいていの用事は村内でほぼ事足りるようです。しかも生協から週イチで食料品・日曜品の配達が可能であると役場の職員さんに聞いてさらに安心しました。

今回のおためし移住体験で私は終始レンタカーを借りるができたので、これといった不便さも感じずとても快適に過ごすことができました。ありがとうございます。私の経験からのアドバイスになりますが、これから参加される皆さんには是非ともレンタカーの利用をお勧めしたいと思います。宿泊場所が村の中心部から離れているため、車を使うことでより行動範囲が広がり、普代村のことをもっとたくさん知ることができると思います。

さて就業についてですが町の産業は水産業中心で、大きな工場など若い人の働く場所がほとんどないように見受けられました。私たちのような近々年金生活にはいる中高年ならいいけれど、若い子育て世帯の移住は少し難しいかなと感じました。普代村ではこの夏から村興し協力隊が活動しているようです。例えば道の駅とか日帰り天然温泉など情報発信の場が新たに OPEN して、村民の雇用に繋がればいいなと思います。村には素晴らしい景観や自然といった貴重な財産があるのですから、これらを活用して都市圏から人を引き寄せるような仕掛けやアイデアが何かしら見つからないものではないでしょうか。今の普代村は、三陸鉄道北リアス線から降り立った団体客がバスで通過するだけの場所になっているような気がします。私は個人的に黒崎周辺の素朴さがとても気に入っているのですが、団体ならば食事場所がそれなりに整備された隣村の北山崎園地に行ってしまうのではないのでしょうか。普代は本当にいいところなのにもったいないです。ウェブサイトや冊子を見る限り、村は観光にもかなり力を入れているようですが、滞在型の受け入れ施設が少ないように感じました。宿がくろさき荘と民宿 1 軒ではちょっと心もとない気がします。食堂は個人・家族旅行なら安価で海の幸が味わえて今で十分ですが、もう少し気の利いたところがあってもいいかな、とも思います。道の駅のような施設があればツアー客も誘致できるのではないのでしょうか。何もかもがお金のかかることなので簡単にはいきませんね。

役場の職員さん曰く、今年の出生児数が現状 5 人程度で初めて一桁で終わるのでは、ということだったのですが、どこもかしこも少子高齢化なのでしかたないです。でも 1 年間で 10 人以内とは本当に寂しいことです。大学進学で実家を離れた若者が将来的に村に戻らないというのも残念です。生まれ育った土地でずっと住み続けられるような魅力ある村作りをすることが大切なのですが、働く場所がないのでなかなか難しいことですね。村出身の子どもたちがまたいつか帰りたいと思える普代村であってほしいです。

私が普代で特にいいなと思ったのは、村に人工的なハコモノ(資料館・博物館・プラネタリウム等)や公園がないことです。人件費や維持管理にお金がかかるものは好ましくないと常々思っています。普代村では図書館も人口に見合うようなこじんまりとした質素なものでした。普代村は人工的な施設より自然美が似合う土地柄なので、今ある自然景観を大切に活かしながらこの先も行政してくださることを願っています。

東日本大震災の津波から住宅を守った奇跡の普代水門や太田名部防潮堤のことも役場が発行している冊子で知りました。元村長さんを称える碑も現地で見ました。実際に訪れなければわからない歴史や史実があって、そういうものを知ることも見聞が広がり面白いです。NHK連読テレビ小説あまちゃんのロケ地となった堀内駅などちょっと話題になった場所にも行けて楽しかったです。その堀内駅と普代駅の間にある白井海岸駅はマニアが選ぶ秘境の駅10選に入っている場所です。行き方がわからず付近の村人さんに道を尋ねたら親切に教えてくださいました。

先だっの台風で内陸の岩泉町が大きな被害を受けたのに対して、普代はこんなにも海に近いのにほとんど無傷であったことが再びの奇跡のように感じてしまいます。なんとなく神さまに守られているような気がします。やはり鶴鳥神社によってご加護を受けているのかもしれないね。その鶴鳥神社のすぐ近くの私が泊まった宿舎ですが、その昔は学習体験施設兼資料館だったところです。昨年、宿舎に改装されたばかりでとてもきれいで快適でした。夜は寂しいくらいの静けさでのんびりゆったり過ごすことができました。家族やグループで賑やかに泊まるのもきっと楽しいだろうと思います。住めば都、とはよく言ったもので、3泊もするとすっかり自宅のような親近感が湧いて最終日にはなんとも寂しく去りがたい気持ちになりました。私は普代村が好きになりました。まるで第二のふるさとみたいです。移住については叶うかどうかわかりませんが、これから真剣に前向きに考えたいと思います。普代村のこのありがたい事業のおかげで、私は今までまるで知らなかった普代という場所を訪れることができました。おためし移住体験事業は次の一步に繋がる素晴らしい取り組みです。参加させていただいて幸せでした。

普代村役場の担当者様をはじめ、今回お世話になった皆々様、本当にありがとうございました。このレポートを借りて感謝・お礼を申し上げます。

H28. 11. 10 桂月